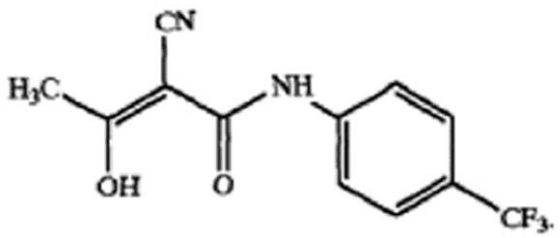
【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成26年8月21日(2014.8.21)

【公表番号】特表2013-536209(P2013-536209A)
【公表日】平成25年9月19日(2013.9.19)
【年通号数】公開・登録公報2013-051
【出願番号】特願2013-525178(P2013-525178)
【国際特許分類】
Ｃ０７Ｄ 261/08　(2006.01)
Ｃ０７Ｃ 255/23　(2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/42　(2006.01)
Ａ６１Ｋ 31/167　(2006.01)
Ａ６１Ｐ 25/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ 9/00　(2006.01)
Ａ６１Ｐ 17/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｃ０７Ｄ 261/08
Ｃ０７Ｃ 255/23　ＣＳＰ
Ａ６１Ｋ 31/42
Ａ６１Ｋ 31/167
Ａ６１Ｐ 25/00
Ａ６１Ｐ 9/00
Ａ６１Ｐ 17/02

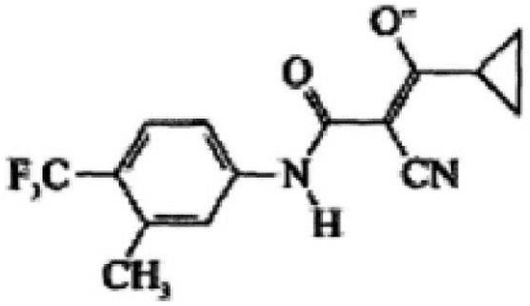
【手続補正書】
【提出日】平成26年6月30日(2014.6.30)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
中枢神経系外傷関連障害の治療において使用するための、化学式（ＩＩ）

II)



の化合物、または、その薬学的に許容可能な塩、溶媒和物、立体異性体もしくは誘導体であって、
前記誘導体は、化学式（ＩＩＩ）

III)



の化合物、または、その薬学的に許容可能な塩、溶媒和物もしくは立体異性体である、中枢神経系外傷関連障害の治療において使用するための化合物、または、その薬学的に許容可能な塩、溶媒和物、立体異性体もしくは誘導体。

【請求項２】

前記化合物の前記立体異性体は、ＲまたはＳ鏡像異性体である、

請求項１に記載の化合物、または、その薬学的に許容可能な塩、溶媒和物、立体異性体もしくは誘導体。

【請求項３】

前記中枢神経系外傷関連障害は、完全脊髄損傷、不完全脊髄損傷、脊髄挫傷、脊髄圧迫、脊髄外傷、脊髄損傷、対麻痺、四肢麻痺（quadriplegia）、四肢麻痺（tetraplegia）、脊髄中心部症候群、ブラウン・セカール症候群、脊髄前部症候群、脊髄円錐症候群、馬尾症候群、外傷性脳損傷、ＴＢＩ、脳損傷、脳ダメージ、頭部外傷、びまん性軸索損傷（ＤＡＩ）、頭部外傷、脳振盪、脳挫傷、硬膜下血腫、硬膜外血腫、クモ膜下出血、脳内出血、またはＣＮＳ圧迫である、

請求項１又は２に記載の化合物、または、その薬学的に許容可能な塩、溶媒和物、立体異性体もしくは誘導体。

【請求項４】

前記中枢神経系外傷関連障害は、脊髄損傷または脊髄挫傷である、

請求項１又は２に記載の化合物、または、その薬学的に許容可能な塩、溶媒和物、立体異性体もしくは誘導体。

【請求項５】

中枢神経系外傷関連障害を予防および／または治療するための医薬組成物であって、

治療有効量の請求項１～４のいずれか１項に記載の化合物、または、その薬学的に許容可能な塩、溶媒和物、立体異性体もしくは誘導体を薬学的な許容可能な媒介物または賦形剤と混合して含む医薬組成物。

【請求項６】

前記中枢神経系外傷関連障害は、完全脊髄損傷、不完全脊髄損傷、脊髄挫傷、脊髄圧迫、脊髄外傷、脊髄損傷、対麻痺、四肢麻痺（ｑｕａｄｒｉｐｌｅｇｉａ）、四肢麻痺（ｔｅｔｒａｐｌｅｇｉａ）、脊髄中心部症候群、ブラウン・セカール症候群、脊髄前部症候群、脊髄円錐症候群、馬尾症候群、外傷性脳損傷、ＴＢＩ、脳損傷、脳ダメージ、頭部外傷、びまん性軸索損傷（ＤＡＩ）、頭部外傷、脳振盪、脳挫傷、硬膜下血腫、硬膜外血腫、クモ膜下出血、脳内出血、またはＣＮＳ圧迫である、

請求項５に記載の医薬組成物。

【請求項７】

前記中枢神経系外傷関連障害は、脊髄損傷または脊髄挫傷である、

請求項５に記載の医薬組成物。

【請求項８】

脊髄損傷または脊髄挫傷を予防および／または治療するための医薬組成物であって、

治療有効量のレフルノミドを薬学的な許容可能な媒介物または賦形剤と混合して含み、第２活性薬剤としての免疫調節性化合物を含まない医薬組成物。